

連載

もう、悩まない！ 『石原健の HOTEL LOVERS』

#18

㈱呉竹荘ホールディングス
代表取締役社長
山下 顕広 氏



㈱呉竹荘ホールディングス
代表取締役社長
山下 顕広 氏

家業を継ぐことを意識して、
知識と経験を積む

石原 山下様とは昨年にハートフル・ホスピタリティ㈱の中村一行社長の紹介で知り合い、今は仕事でのお手伝いもさせていただいております。社長に就任されてからもうすぐ1年、会社は今月で法人改組からちょうど75周年、10月には創業から77周年を迎えられますね。まずは学生時代や就職活動について教えてください。

山下 実家がホテル業だと認識したのは、小学生の頃です。長男ですし、いつ

第18回目のゲストは、本社がある静岡県を中心に、全国でホテル・レストラン・ウエディング事業を展開する「呉竹荘ホールディングス」の代表取締役社長である山下顕広氏。山下氏は、先代からの事業を引き継ぎ、着々と事業展開を進めている。40歳の経営者である山下氏に、今後の展開について話を聞いた。

ので、戻ってほしいと言われて決意しました。

ホテル業務を一通り経験したうえで
経営にまわる

石原 2011年に入社し、これまでにどんな業務を担当されましたか。

山下 沼津ではベッドメイキング、フロント、宴会・レストランサービス、そして人事総務を経て、宴会・婚礼営業、ブライダルプランナーなどを経験しました。2016年に総支配人、2018年には専務取締役となりましたが、2021年までは沼津ベースでの勤務でした。ただし2013年からは全体のCFOとして銀行窓口も兼ね、月に2回は浜松の本社にも行っておりました。父親は70歳の誕生日に社長を引き継ぐ気でしたが、コロナ渦となったので、収束して黒字転換の後でと言われ、2024年10月1日に就任しました。

石原 これまでのホテリエ経験の中で印象に残っている出来事は何でしょうか。

山下 2014年、沼津での婚礼のマネージャー時代にがんセンターでの結婚式を挙行したことです。新婦の父親が咽頭がんのステージ4で余命宣告を受けており、外出が難しい状況でしたので、病室

の待合室をチャペルに見立てて、自ら神父役を務め、挙式を実施しました。呉竹荘グループのフィロソフィ（モットー）の一つが、「お客さまのためなら何をしていても良い」だったので、喜んでいただけて本当に良かったです。

石原 それは良い思い出ですね。ご自身のモットーや好きな言葉を教えてください。

山下 大学時代のゼミの先生に言われた言葉で、「往^ゆくに徑^{こみち}に由^よらず」です。どこに行くにしても裏通りや抜け道を通らずに、正々堂々と表通りを歩くことをいい、物事を行うのに近道を求めたり小細工をすることなく、公明正大に行なえという教訓で、常にモットーとしています。

石原 では次に、お世話になった方についても聞かせてください。

山下 沼津東急ホテルの開業メンバーであられた大先輩で、沼津リバーサイドホテルでお世話になった小林彰さんです。外資系ホテルでの経験もあり、お客さまの顔や名前を覚える、こまめに営業に回る、先回りの提案をする、などの基礎から徹底的に教わりました。残念ながらコロナ禍の2020年4月に亡くなられましたが、お客さまや地域の方々にも愛される素敵なおホテリエでした。

常に進化を目指し、
ブランド力を高めていく

石原 自分自身のブランド力の上げ方も教えてください。

山下 学生時代からずっと、笑顔を絶やさないことを心掛け、挨拶もとおきの笑顔と共に行なっています。それから、何事も相手の気持ちになって考えることで、個人やチームの想いを理解し、良き話やアドバイスができることが大事だと思っています。



山下 小学校からテニスを始め大学でテニスサークルに所属、今でも週に2回は体を動かしています。また旅行も好きで、家族で東京ディズニーリゾートや、福井の恐竜博物館に行ったりしています。あとは映画、アカデミー賞の受賞作品を順番に観ています。そして日本酒、地元の花の舞と秋田の新政が好きですね。

石原 好きなホテルはどちらですか。

山下 国内では尾道の「ベラビスタマリナ」です。温泉からの瀬戸内海の景色、薪を使った燻製の料理やバターにつけている香り、話しかけてくるスタッフの接遇や笑顔も素晴らしいです。海外ではハワイの「ハレクラニ」、メインのレストランでプロポーズをした際には、バラの花束や指輪などのサプライズの演出も楽しみながら協力してくれました。

石原 これからの若いホテリエ達に伝えたいことは何ですか。

て、それを超える行動ができるようになってほしいです。リピーターになるとお客さまの期待値がどんどん大きくなるが、それ以上のもてなしによりお客さまに喜んでいただいた際に共に喜べるのがホテル業のすばらしさであると思います。

石原 最後に、今後のビジョンを聞かせてください。

山下 常に進化を追求し、お客さまに喜んでいただけるサービスを生み出し、スタッフも、お取引先も、会社も成長を続けることの先陣を走り続けたいです。チャレンジ精神をもって新たな商品を世に出し、お客さまの評価を得て、改善していく、この繰り返しの中で呉竹荘のブランド価値を高めていく所存です。

石原 まだ40歳ですし、これからが楽しみですね。さらにアグレッシブに皆を引っ張っていただきたいと思います。



㈱ホスピタリティデザイン 横浜
代表取締役

石原 健

Profile > 桜美林大学経済学部卒業。日本ホテルスクール卒業。ホテル産業経営塾卒塾（第一期生）。ホテル センチュリー ハイアット勤務後、1989年、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に第1期生として入社。国内外からのVIP対応等で、4度にわたる皇室接遇担当の栄誉も授かる。ウェスティンホテル仙台を経て、2014年、㈱ホスピタリティデザイン 横浜を設立し、代表取締役。厚生労働省事業検討会委員、ホスピタリティ教育研究会 会長、HSN 会顧問、産業能率大学兼任教員など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。